

1. 計画策定の背景

多摩六都科学館基本計画は、多摩六都圏域における科学館の使命・目的を明確にし、管理運営の基本方針と事業の体系を表す中長期計画である。基本計画の計画期間は、前期・後期5年ずつとする10年間で、平成16年度に現行の基本計画（以下「第1次基本計画」という。）が策定された。平成25年度に10年が経過することから、現行計画について見直しを行い、新たな計画（以下「第2次基本計画」という。）を策定する必要がある。

2. 計画の位置づけ

多摩六都科学館基本計画は、「（仮称）子供科学博物館の基本構想書」（平成2年1月）に基づき、基本理念から構築される事業の体系を明らかにし、中長期的な運営課題への取組みを示すものとして、科学館運営の指針として位置付けられる。平成24年度から、多摩六都科学館組合（以下「組合」という。）の直営を改め、指定管理者制度が導入されたことに伴い、新たな管理運営体制を前提としたスキームに改定する必要がある。なお、計画の策定に当たっては、第1次基本計画の「社会に開かれた科学館－連携・交流・成長－」という理念等を踏襲しつつ、東京都や組合組織市の状況等を踏まえ「地域の生涯学習の拠点構築」「利用者の体験学習の更なる充実」「運営の効率化の推進」「少子・高齢社会への対応」「アクセスの向上」「学校教育との連携」等を検討課題とし、「多摩六都広域連携プラン」（平成23年3月多摩北部都市広域行政圏協議会）で示された「みどりと生活の共存圏」の実現を共にめざして調査・検討を行う。

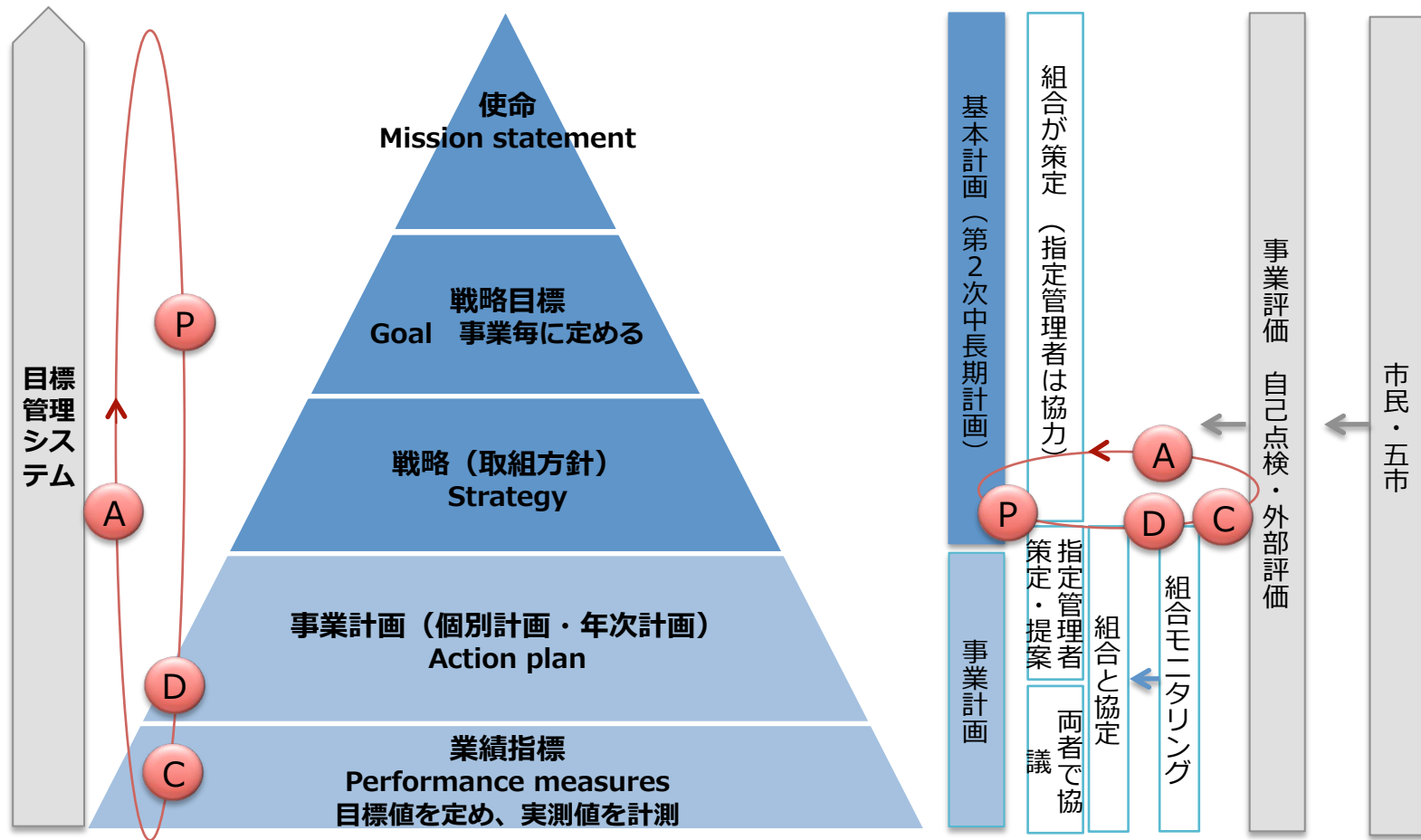
3. 第2次基本計画の枠組み

第1次基本計画では、使命を定めた上で個別計画を策定し事業を進めてきたが、より実効性のある計画とするためには、以下の取組みが必要である。

- ①基本計画と事業評価を明確にリンクさせる
- ②全体の目標管理システムを構築する
- ③中長期の観点から目標値を定め、経年変化を分析可能にする
- ④指定管理者制度の導入を踏まえて、組合と指定管理者の役割分担を明確にする。

第2次基本計画は、公的施設が目標管理・実績評価が導入しやすい「戦略計画方式」で策定

- 第2次基本計画は、使命・戦略目標・戦略（取組方針）までとし、今後10年間の上位計画と位置づける。
- 事業計画は指定管理者が策定し、組合と協定を締結。業績指標は、組合と指定管理者と協議の上定める。
- 外部環境・内部環境の変化に応じて、5年、あるいは毎年、戦略以下の内容はローリングを行い、持続可能な運営を行うことを基本方針とする。



4. 現状分析

■平成25年度に実施した市民調査結果



■多摩六都科学館SWOT分析結果

内部環境分析・内部要因	強み strengths <ul style="list-style-type: none"> ■利用者の満足度が高い（満足+どちらかといえば満足=94%） ■リピーターが多い（大人約6割、児童8割強） ■科学の専門家がいる ■ボランティア活動が活発 ■世界一のプラネタリウムと生解説 ■体験型展示にリニューアル ■子どもの施設というイメージが定着 ■地域の小学4年生が来館・学習投影 ■雑木林などの緑環境がある ■指定管理導入による円滑な運営 等 	弱み weakness <ul style="list-style-type: none"> ■地域住民でも知らない人が15%、非利用者は44% ■アクセス、交通の便が悪い ■駐車場の不足、駐車料金が安い ■地元の館と感じられる要素が少ない ■中学・高校生の利用が少ない ■平日と休日の利用者数の差が大きい ■成人向けプログラムが魅力不足 ■カフェ・ショップの魅力不足 ■人員不足 ■地域連携活動は始まったばかり ■割引を実施できる財源がない 等
	外部環境分析・外部要因	機会 opportunities <ul style="list-style-type: none"> ■近隣に競合施設がない ■話題となる天文現象が続いている ■マスコミが当館に注目している ■周辺に研究機関や技術系企業が多い ■大学や企業等が地域連携を推進 ■参加型・体験型の施設が人気 ■ベッドタウンとして人口増加 ■学習指導要領で博物館利用を推奨 ■持続可能なエネルギー社会への転換 ■生物多様性保全戦略 等

*PDCAサイクル：事業活動を円滑に進めていくため、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）を繰り返し行っていくマネジメントサイクル



多摩六都科学館は、今後、下記のような方針のもと、事業や経営を行っていきます。

使命 Mission statement

めざすべき方向性・社会的な役割

多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。

- ・遊びながら科学を学べる場
- ・科学的な観点から身の回りの世界をひもとき、多様なものの見方に気づき、新たな発見や疑問を見いだす場
- ・生きる力となる創造的な考え方や体験が得られる場
- ・多摩地域の価値や資源を再発見・再評価する場

そして、多摩六都科学館は、活動の場を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。

*多摩六都科学館は、多摩六都（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の五市によって運営されている科学館です。

スローガン

みんなで共有したい活動指針

ともにつくりあげていく



戦略目標 Goal

これからの10年、科学館を成長・発展させていくための目標

戦略（取組方針） Strategy

戦略目標を達成させるために、具体的に行う取組や方策

事業計画

科学館事業

多摩六都科学館は、活動や場を拡げ、ひとりでも多くの皆さんに、科学の楽しさをともに体験できる科学館をめざします。

地域拠点事業

多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、自己実現の場として活用できるよう、地域の交流拠点（たまり場・ハブ）となります。

多摩六都科学館は、活動や場を介して、地域の様々な資源をつなぎ、新たな資源を住民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。

- 子どもだけでなく、幅広い年齢層、すべての地域住民、様々な機関も対象とする。幼児、若者層、高齢者層も楽しめるコンテンツの開発を推進する。
- 多様なテーマを科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図る。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだす。
- 専門性を重視しつつ、科学を通して得られる楽しみや感動、インスピレーションを重視した事業を行う。
- ひとりで展示を見るだけでなく、その場に参加した人たちで、ともに作り上げていくプログラムへと転換を図る。
- 館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々に科学の楽しさを体験していただけるよう、アウトリーチ活動も行う（多摩六都広域連携プランに対応）。
- 科学の楽しさを体験できる活動が地域内外に拡がっていきけるよう、地域住民の自発的な活動を支援する。等

- 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、自主的な活動によって成長し、社会還元し、自己実現できるよう支援活動を行う。
- 子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人々が、科学館ボランティアとして、主体的に事業に参画できる機会を提供する。
- 科学館をもっと気軽に利用してもらえよう、無料ゾーン・有料ゾーンの設定を変更する。有料ゾーンは、プラネタリウム、常設展示、企画展示、イベント会場のみとし、無料ゾーンの充実を図る。
- 地域住民のための施設として認知されるよう、施設の貸出や場の提供も行えるよう、条例の改正や規程の整備を行う。
- 住民や利用者の総合的な学習活動を支援する科学館を、利用者の視点に立ち、ともにつくりあげる。等

- 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信し、さらに新たな地域資源を作り上げていく。こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていく。
- 多摩六都地域だけでなく、多摩地区全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、データベースを作成し、共有できるしくみを整備する。
- 科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどを、協力者とともに開発し普及させていくセンター的な役割も展開する。等

経営管理計画

マーケティング

多摩六都科学館の地域住民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、地域住民の科学館に対する価値観を高めていきます。

- 利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進する。住民や利用者の声を長期的に反映させやすいしくみを検討する（モニター制度等）。お客様を第一に考え、常に質の高いサービスを提供する。
- 多摩六都科学館が地域住民のために運営されている館であることの認知度をアップさせる方策を行う。広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開する。
- 利用者の満足度が低い施設を改善し、体験プログラムの充実を図り、満足度アップをめざす。
- 館名のわかりづらさについては、愛称やキャッチコピーをつける等して改善を図る。将来的には館名の変更も視野にいれ検討を進める。等

財政計画

多摩六都科学館は、利用しやすく満足度が高く、地域貢献できる施設をめざし、ソフト・ハード両面の改善や開発を推進し、持続可能な発展をめざします。

- 負担金・利用料以外の外部資金の導入・活用策を検討する。寄付、助成金、補助金の確保の他、ネーミングライツ、賛助組織や地域連携・協働体制の整備（ともにつくりあげていくしくみ）なども早急に検討を行う。
- 交通の便が悪い、駐車場が不足しているなど立地に関する課題を解決するための取組みを行う。バスの運行、土地の活用など、投資の必要もあるが、長期的な観点から改善策を検討する。
- 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図る。等

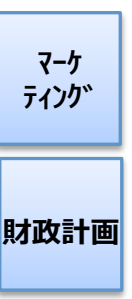
事業計画

事業領域の拡充



経営管理計画

重点分野



事業スケジュール案 10年間のロードマップ

目標			第2次（H26～H35）												
			H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35			
使命 多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。そして、多摩六都科学館は、活動の場を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。			<ul style="list-style-type: none"> 「多摩六都科学館の10年間の活動は、自分にとって、あるいは地域にとって価値あるものだったと思いますか」 「誰もが科学を楽しめる（引き出しがいっぱいの）科学館」としての評価 「多くの地域住民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価 等 	—	新たに定めた多摩六都科学館の使命（めざすべき方向性・社会的な役割）を周知し、ともに作りあげていく科学館像を多くの住民と共有し、使命の実現をめざす。										
	戦略目標	科学館事業 多摩六都科学館は、活動や場を拡げ、ひとりでも多くの皆さんに、科学の楽しさをともに体験できる科学館をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層からの支援（年代別利用者数） 「子どもからお年寄りまで楽しめる科学館」としての評価 年齢別のコンテンツ開発数 ともに作りあげていくプログラム開発数 新規利用者数 科学への関心喚起度 アウトリーチ活動の実施回数・利用者数 科学の楽しさを実感したと回答した人の割合 等 	—	「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はすでに達成できている。今後は、幅広い年齢層が利用できる施設へと転換を図り、多くの方々が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざす。										
		地域拠点事業 多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、自己実現の場として活用できるよう、地域の交流拠点（たまり場・ハブ）となります。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動（参加人数と活動度、活動内容） 生涯学習施設としての役割・認知度 「身近にある親しみやすい科学館」としての評価 学習支援施設（ライブラリー等）の利用数 利用者の声を反映した改善策の実施（数と内容） 施設の貸出件数と活動内容 等 	—	開館当初から期待されていた役割でありながら、子どもの施設のイメージが強く、生涯学習施設としての機能は周知されていない。そこで、施設の機能構成から見直し、地域住民が気軽に利用できる施設へと転換を図る。										
		地域拠点事業 多摩六都科学館は、活動や場を介して、地域のさまざまな資源をつなぎ、新たな資源を住民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携事業、協働事業の実施（参加した住民・ボランティアの数、開催数と内容） 上記参加者の評価（効果と満足度） 科学的な観点からの地域資源の掘り起こし・価値づけ・発信などの活動（数と内容） 「地域資源を生かした運営」に対する評価 科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどの開発活動（数と内容） 上記利用者・参加者の評価（効果と満足度）等 	—	新たに定めた使命を実現するために、新たに設けた事業分野。徐々に地域連携や地域資源の掘り起こしは始めているが、今後は多摩六都科学館の目玉となる事業。地域住民の皆さんの協力を得ながら体制を整備し、実現をめざす。										
		マーケティング 多摩六都科学館の地域住民の認知度・利用率を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、地域住民の科学館に対する価値観を高めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民のための施設「地域コミュニティの核となる科学館」としての評価 地域住民の科学館の認知度・利用率・満足度 利用者数 利用者の満足度（平日・休日） モニター制度等の取組件数 満足度が低い施設の改善（件数と効果） 等 	—	利用者の満足度は高いが、地域住民の認知度・利用率を伸ばすことが今後の課題。広報活動、ニーズ調査を平行に行いながら、認知度・利用率・満足度のアップをめざす。長期的には、地域住民の科学館に対する価値観を高めることをめざす。										
財政計画 多摩六都科学館は、利用しやすく満足度が高く、地域貢献できる施設をめざし、ソフト・ハード両面の改善や開発を推進し、持続可能な発展をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> 外部資金の調達（金額と内容） ともに作りあげていくしくみの整備 アクセス・交通の便改善策の実施 「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価 駐車場の再整備 優秀な人材の確保および育成（研究者・学芸員の充実） 等 	—	第1次基本計画時に策定した財政計画によって、プラネタリウムや常設展示のリニューアルが無事に実現できた。第2次基本計画でも、持続可能な成長・発展ができるよう、ハードだけでなくソフトの質的充実も図れるよう、財源の確保をめざす。												

↑凡例 ○：市民調査の結果あり、△：類似した指標の結果あり、—：これからの取組のため数値なし